

[HOME](#) > [コラム](#) > [コラム](#)

コラム

認知症全般知識に役立つコラム

認知症学会専門医 占部 新治先生による、「認知症全般知識に役立つコラム」です。第1～第4 金曜更新!

第2章 対応の話 第1節 認知低下、どう対処したらよいかの秘訣
2項・幻覚、妄想への対応への対応

幻覚や幻聴も否定をせずに聞いてあげる

幻覚について、怒りや興奮と同じに共感の意を示しながら、話を聞いてあげることです。途中で話の間違いや思い込みに気がついても指摘をしないで、終わりまで聞きましょう。幻覚と妄想の内容について、どのようなことなのかを聞き取ることで、対応が色々と異なります。

幻聴は、人の声もありますし、音楽のこともあります。またお経の時もあります。人の声も様々で、知らない人、知っている人、友達や家族のこともあります。

聞こえてくる話の内容を聞いて、本人がどのような気持ちを抱いてられるのか、さみしい気がしたのか、怖い気がしたのか等を知ることが役に立ちます。

その時の気持ちを汲取ってあげることが、大変有効な対応となります。それで何かを行動するというよりも、気持ちをわかってあげて、それに共感を示して味方になってくれることが、本人への意味のある対応となります。

妄想も否定せず、感情を共有して安心してもらおう

妄想も同じことが言えます。妄想は思い込みと違って訂正不能な信念ですから、間違っていることを正すことはできません、そのことを目指すと、関係性はどんどん悪くなり感情的なしこりが深まるばかりです。従って、行ったのは引いて相手の言うことを受け入れて、関係性構築を図ることに努めます。その関係性が出来た時点で、妄想の中身を相手としっかり確認しながら尋ねていって、何をどういうように感じ、考えておられるのかを理解します。

聞き終わって理解できるまで、間違っても訂正したり合点がいかないなどと口走ってはいけません。

相手の考えや感情を理解しようとする立場を、決して忘れない様に十分意識してください。その中で分かった感情的なことについて、共感して励ましたり、慰めたり、怒ってあげたりして感情を共有します。

そういうことがあっても、味方だから安心するようにと孤独でないことを積極的に伝えましょう。

安心感が出来ると、妄想の中身が変化するようになることがあります、中身は変わらなくても小さく弱くなる場合があります。これで、良いのです。

方向としましては「安心感を持っていただく」です。そうすれば、怒ったり、興奮したり、拒否したり、プチ切れたりは減少、縮小します。このことで、介護や支援がどれほどやり易くなるか、効果は大きいです。完璧を目指す、関係性に綻びが出ます。

希望が欲望に変わり、相手は圧迫や強制という匂いに敏感に反応されますので注意です。